

私が教育実習で一番苦勞したのは、授業計画です。数日間の授業見学で目の当たりにしたのは、子どもたちの授業に対する無気力な姿でした。もちろん中には真面目に授業に参加する生徒もいました。しかし、寝ていたり、友達と授業に関係のない話をする生徒が多かったのです。授業がわからないから寝たり、退屈だから友達とおしゃべりしたりするのは、教師の責任でもあるような気がしました。その日から、自分が授業するとき、どのような工夫をすれば良いのか、とても悩みました。そこで私なりに考えた結果ですが、「毎時間なにか1つの簡単な実験や観察を取り入れ、視覚的に子どもたちに感じてもらおう！」ということでした。ですが、その準備がとても大変で、お店に買いに行ったり、授業前には必要な器具などを全てそろえたり、一番大変だったのは指導教諭と夜遅くにクワガタを採りに行ったことです。1つの授業を考え、計画をたてることが、いかに難しく時間がかかることかを実感できました。そのようにして私なりに精一杯行った授業を「好きだ！楽しい！」と言ってくれる子どもたちがいるだけでとても嬉しくなりました。授業中に寝ている生徒は、机間巡視の時に必ず起こすようにしていましたが、それでも起きてくれない生徒がいました。私は諦めずに、授業中に何度か声を掛けるように努力をしていました。そんな生徒に私の思いが伝わったのか、ある日を境に、授業をしっかりと起きて参加するようになりました。廊下ですれちがった時、言われた言葉は一生忘れないと思います。

「先生、いっつも私のこと起こすよなー。こんな先生初めてやし。しかも、先生声高いから寝られへんねんなー。だからしゃあなしで起きといたるわ！」この言葉を聞いた時、私はとっても嬉しくなりました。諦めずに声を掛け続けていて、良かったと思いました。たったの3週間の教育実習でしたが、この短い期間でその生徒と心が通じ合ったような気がしました。今思うと、あの生徒はどうしてあのタイミングで起きるようになったのか、不思議に思います。私が起こすことを諦めてしまっていれば、このような素敵な物語は生まれなかったと思います。

やはり、教師の魅力というものは、「子どもたちと共に、自分も成長できる」ということだと感じています。子どもたちが私の知らなかった、気付かなかったことを私に教えてくれます。私は子どもたちからたくさんのことを学ぶことができました。子どもたちは一人一人考えが異なり、性格も違います。私は、そんな子どもたち一人一人を大切にできる教師になりたいです。子どもたちが考えていることや悩んでいること、心の中にあるものをさとり、共感できる教師を目指します。日頃から、子どもたちとのコミュニケーションを大切にし、小さな変化にも気付けるようになりたいと思っています。毎日、安心して学校に通えるような学級・学校づくりを目標に日々、精進していきます。

学校という場合は、毎日が新鮮で同じ日は二度と来ません。だからこそ、毎日が楽しくも厳しくもあります。こんな素晴らしい職業は他にはないのではないかと思います。絶対に、教師になるという夢を叶えたいと思います。